

原発問題を考えよう！

「冷温停止状態、事故収束」は本当か！？

Point154号でお伝えしたように、政府・野田首相は先月16日「福島第一原発事故は冷温停止状態に入り、事故そのものは収束した」と発表しました。

しかし、本当に事故そのものは収束したと言えるのでしょうか？

昨年3月11日の地震発生そして福島第一原発が事故を起こして以降、政府や東京電力の事故に関する発表は事実を隠したり、意図的に発表を遅らせたりしていたことは明らかになっており、特にSPEEDI(緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム)の情報を明らかにしなかったために、高いレベルの放射能から逃れるために避難した場所の放射能レベルが高いという取り返しのつかない事態も発生しました。また、枝野前官房長官が事故直後に食べ物や飲み物への放射能の影響について「直ちに人体・健康に害がない」と記者会見を行い、「直ちに…はない」は一時流行語にもなりましたが、昨年秋の衆議院予算委員会で枝野前官房長官は「一般論で言ったのではなく、限られた場合の話だった」と答弁しています。

枝野前官房長官の「直ちに人体・健康に害がない」発言の意図はどうであったかはわかりませんが、マスコミ各社は一般論として報道しており、クレームもつかなかったため、枝野氏発言・マスコミ報道を信用して被曝した人もいることだと思います。

原発推進のために国民を欺いてきた政府は信用できない！！

元旦の毎日新聞一面トップ記事に【核燃処分コスト隠蔽 エネ庁課長指示】との大見出しで、使用済み核燃料を直接処分したほうが再処理するより安価であることを隠していたことが報じられ、国の原子力政策推進のために国民を騙していた事実が明らかになりました。

また、福島第一原発事故で、政府関係者、官僚、東京電力、マスコミ、御用学者たちは当初楽観的な発言を繰り返して国民を欺いてきた結果が最悪に近い事故になり、多くの国民が防げたかもしれない被曝をしてしまいました。

以上のように政府・野田首相が事故そのものは収束したと発表しても、今まで、国民を散々欺いてきたのだから、とても信用できるものではありません。

福島第一原発は、放射能レベルは低くなったとはいえ、未だに放射能が漏れ続けているのが現状です。とても『収束』などと言える状況にはないと思います。

では何故このような状態で『収束』を口に出すのでしょうか。『収束』という言葉の裏には、「原発事故はもう大丈夫だ」と国民を勘違いさせ、福島第一原発事故の現状から目をそらし、各地の原発の早期再稼働を狙っているのです。つまり、国を滅ぼしたかもしれない事故を起こしても、まだ懲りていないのが<政府><電力会社>そして経済のために早期再稼働を求める<経済界>ということです。

原発事故は他人事ではありません。「明日は我が身」いつ自分に降り懸かってくるかも知れないことをよく考え行動していきましょう。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！

